

謹賀新年



令和5年 年頭のごあいさつ

大石田町長

村岡藤弥



明けましておめでとございます。皆様におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのこと心からお慶び申し上げます。

安心して暮らせる

賑わいのあるまちを目指して

昨年を振り返りますと、全国的に自然災害の多い年でした。3月16日に発生した「福島県沖地震（マグニチュード7.4）」は、最大震度6強を観測し、死者3名、負傷者247名、家屋の倒壊など約5万棟の住宅被害を引き起こしました。

近年激甚化する豪雨災害も忘れてはいけません。令和3年6月から、気象庁は新たに「線状降水帯」というキーワードを使用し、「顕著な大雨に関する情報」の運用を開始しました。令和4年中、山形県においても、線状降水帯の発生によって激甚化した豪雨災害が発生しており、「8月3日からの大雨及び台風第8号」では本県を含む26県に河川の氾らんや土砂災害などを引き起こしました。この災害で、2名の命が奪

われたほか、多くの負傷者が出ました。昨年12月31日には鶴岡市西目地区で大規模な土砂崩れが発生し、住宅などおよそ10棟が倒壊、住民とみられる2人が亡くなられました。

新たな1年が災害のない穏やかな年であることを切に願います。

町では、迫りくる自然災害への対応力を高めるべく、災害時に災害・防災情報を発信するツールを整備しています。災害が発生する恐れがある場合には、「町防災放送」や「緊急速報メール」などの従来の情報伝達手段に加えて、町外に働きに出ている方にも情報をお届けできるように「Yahoo!防災速報」、「町公式LINE」からも注意喚起の情報や避難に関する情報等を配信しています。今後も、正確かつスムーズな情報発信を行うとともに、普及推進に努めてまいります。

登録しよう！

Yahoo! 防災速報

▼ iPhone の場合

▼ Android の場合

登録しよう！

大石田町 公式LINE

▼ iPhone・Android 共通

県内でも有数の豪雪地帯である当町において、冬の快適な暮らしには雪対策が不可欠です。町では1月3日（火）に豪雪対策本部を設置し、流雪溝通水時間の延長等の対応をとりました。今後も引き続き、関係機関と緊密に連携を図り迅速に対応してまいります。

雪問題は行政の力だけでは解決できません。引き続き行政と住民の総力を結集して雪対策に取り組んでまいりますので、町民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

昨年10月に東北中央自動車道の東根北ICから村山本飯田IC間が、11月には新庄鮭川ICから新庄真室川IC間が開通しました。これにより、首都圏などからのアクセスがこれまで以上にスムーズになり、地域経済の活性化に寄与するものと期待しております。

これまでも県内外に「そばの里大石田」をPRしてまいりましたが、今後は関東圏へのPRにも力を入れ、コロナ前以上の賑わいを創出できるよう取り組んでまいります。

町では第7次総合振興計画において「美しい自然と共生し、安心して暮らせるあたかいまち」を将来像として掲げており、令和2年7月豪雨災害を受け、現在、流域治水プロジェクトが進められております。安心して暮らせるまちづくりのために、町民の皆様の声を聴き事業に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますようご祈念申し上げ、挨拶といたします。

令和5年1月